

5 プラスチック

家電製品等個別製品の各リサイクル制度やPETボトルやプラスチック容器の再商品化を義務づけた容器包装リサイクル法等の浸透により廃プラスチックの有効利用率は、年々上昇しています。2012年は、マテリアルリサイクルの量は減少しましたが、ケミカルリサイクル(※1)、サーマルリサイクル(※2)の量が増加し、有効利用率が80%(前年比2%増)となりました。

樹脂生産量は世界景気の減速と円高により前年に比べ大幅に減少し、国内樹脂製品消費量も減少したことにより、廃プラスチック総排出量は929万トン(前年比-23万トン;-2%)でした。

廃プラスチックの排出先の内訳は、一般系廃棄物446万トン(前年比-19万トン;-4%)、産業系廃棄物482万トン(前年比-4万トン;-1%)となりました。

処理処分方法別では、マテリアルリサイクルは204万トン(前年比-7万トン;-3%)と減少しました。ケミカルリサイクルとサーマルリサイクルはそれぞれ38万トン(前年比+2万トン;+6%)及び502万トン(前年比+6万トン;+1%)と増加しました。

廃プラスチックの有効利用率は、マテリアル、ケミカル及びサーマルリサイクルの比率がそれぞれ22%、4%および54%とサーマルリサイクルの比率が前年に比べ増加し、全体では2%増加して80%と

なりました。

単純焼却および埋立については、それぞれ96万トン(前年比-6万トン;-6%)および89万トン(前年比-16万トン;-15%)でした。

マテリアルリサイクルの利用先としての廃プラスチックの輸出は167万トン(前年比+4万トン;+2%)と増加しました。

※1:ケミカルリサイクル=高炉・コークス炉原料+ガス化+油化

※2:サーマルリサイクル(エネルギー回収)=固形燃料+セメント原・燃料+廃棄物発電+熱利用焼却

図-IV-11 プラスチックの生産量と排出量の推移

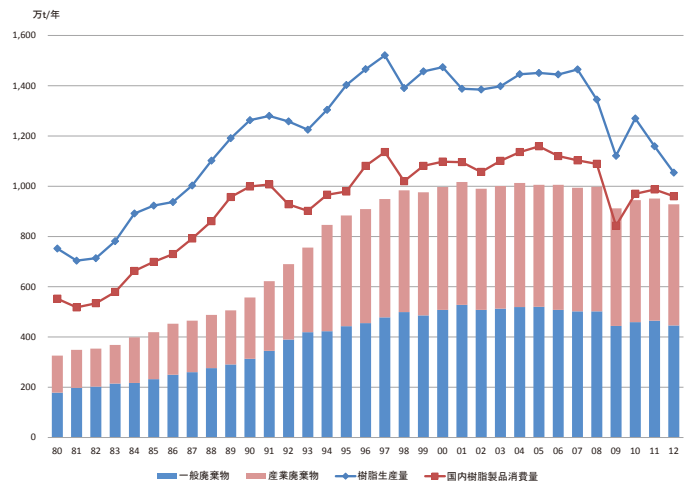


図-IV-12 プラスチック製品・廃棄物・再資源化フロー図(2012年)

